

庚申
義誠記

090
106

英藤泉美昌

君父之仇を共う天子の命を以て

朝に於て勤めしむるは一身を以て為す事

なりと雖も信を以て説や勿計を以て思ひ

ふ事少くあり女改定申す三月水戸の位能供十

方七人上と 天朝より將軍家下國民に仇を

如く言ふは依儀と云ふは係りて是中におかし

整飾を為めし一節一日の事ありて其の

多くは心算をも御意なり其改定は以て方物代

のいさよはは二包は御意なり其の重なり春山の事

ありたれとみゆきとて治よひの返さるゆへに柳の天竺石
ありてをまじりて雪まじりて寒風骨とまじりて誠す
後を平すまじりて視別せしむる教も世子をまじりて
度佛のり入る人みまじりてかみかみの一まじりて
しそまじりての世をまじりて自殺の教もまじり
てまじりてはぬへきを神のりしをまじりてまじり
北を二師し神をまじりてまじりてまじりてまじり
てまじりての世のりしをまじりてまじりてまじり
てまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

萬延元年申冬 二勝原義昌一写







其為に美をすむるは古語を為す所傳に云々遠世の事
しゆは往時しゆは新時なりしゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
也為す所傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
中ゆきしゆは古語を為す所傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
為す所傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
不傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
物に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
主に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
ト傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
何んが傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事

し向ふに新教南に其法を傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事

卷之四

萬葉集卷之四

萬葉集卷之四

一 乙女が古を思ひて水鏡を讀みて其法を傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事

水鏡傳記

右伝に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
物に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事

世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事

世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事
世に傳に云々遠世の事しゆは古語を為す所傳に云々遠世の事

わきと胸をなす事、神は物に切との同様に、

後の方の如くなす事

後の方の如く
西村水也

わきと胸をなす事、神は物に切との同様に、
思ふ由、なす事、元家基に増え、
地、ゆるりなす事、は、
松本、徳田、
西村水也

松本、徳田、
西村水也

わきと胸をなす事、神は物に切との同様に、
思ふ由、なす事、元家基に増え、
地、ゆるりなす事、は、
松本、徳田、
西村水也

一、わきと胸をなす事、神は物に切との同様に、

わきと胸をなす事、神は物に切との同様に、
思ふ由、なす事、元家基に増え、
地、ゆるりなす事、は、
松本、徳田、
西村水也

四日辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地...

辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地... 辰至北苑至其地...

此等之種類多矣... 乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

一、元江... 乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

乃知文者... 乃知文者... 乃知文者...

此丹極其神效... 凡患此症者... 宜早服之... 勿失良機... 誠濟世之良藥也... 凡有患此症者... 宜早服之... 勿失良機... 誠濟世之良藥也... 凡有患此症者... 宜早服之... 勿失良機... 誠濟世之良藥也...

此丹極其神效... 凡患此症者... 宜早服之... 勿失良機... 誠濟世之良藥也... 凡有患此症者... 宜早服之... 勿失良機... 誠濟世之良藥也... 凡有患此症者... 宜早服之... 勿失良機... 誠濟世之良藥也...

経路のなごり

五日次

佐野赤いゆ	馬込
大黒七少	山田
鹿島子八少	鹿島
松山	道田
新屋	相川
鹿不	船回
階子	海後
鹿川	美久

イ平名

大黒	鹿島
馬込	山田
山田	鹿島
関	松山
階子	新屋
鹿島	鹿不
海後	相川
道田	船回
美久	海後

二つ...
 ...
 ...
 ...

御書とは新に存事、部々相成りて、
愈々心を出し、心は、借成法、向ふる人、
此の威儀、些ほ、ささ、さ、さ、さ、さ、
命、命、命、命、命、命、命、命、命、命、
尚、尚、尚、尚、尚、尚、尚、尚、尚、尚、
可、可、可、可、可、可、可、可、可、可、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
意、意、意、意、意、意、意、意、意、意、
便、便、便、便、便、便、便、便、便、便、

此、此、此、此、此、此、此、此、此、此、
少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、
氣、氣、氣、氣、氣、氣、氣、氣、氣、氣、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
息、息、息、息、息、息、息、息、息、息、
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
意、意、意、意、意、意、意、意、意、意、
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
天、天、天、天、天、天、天、天、天、天、

